

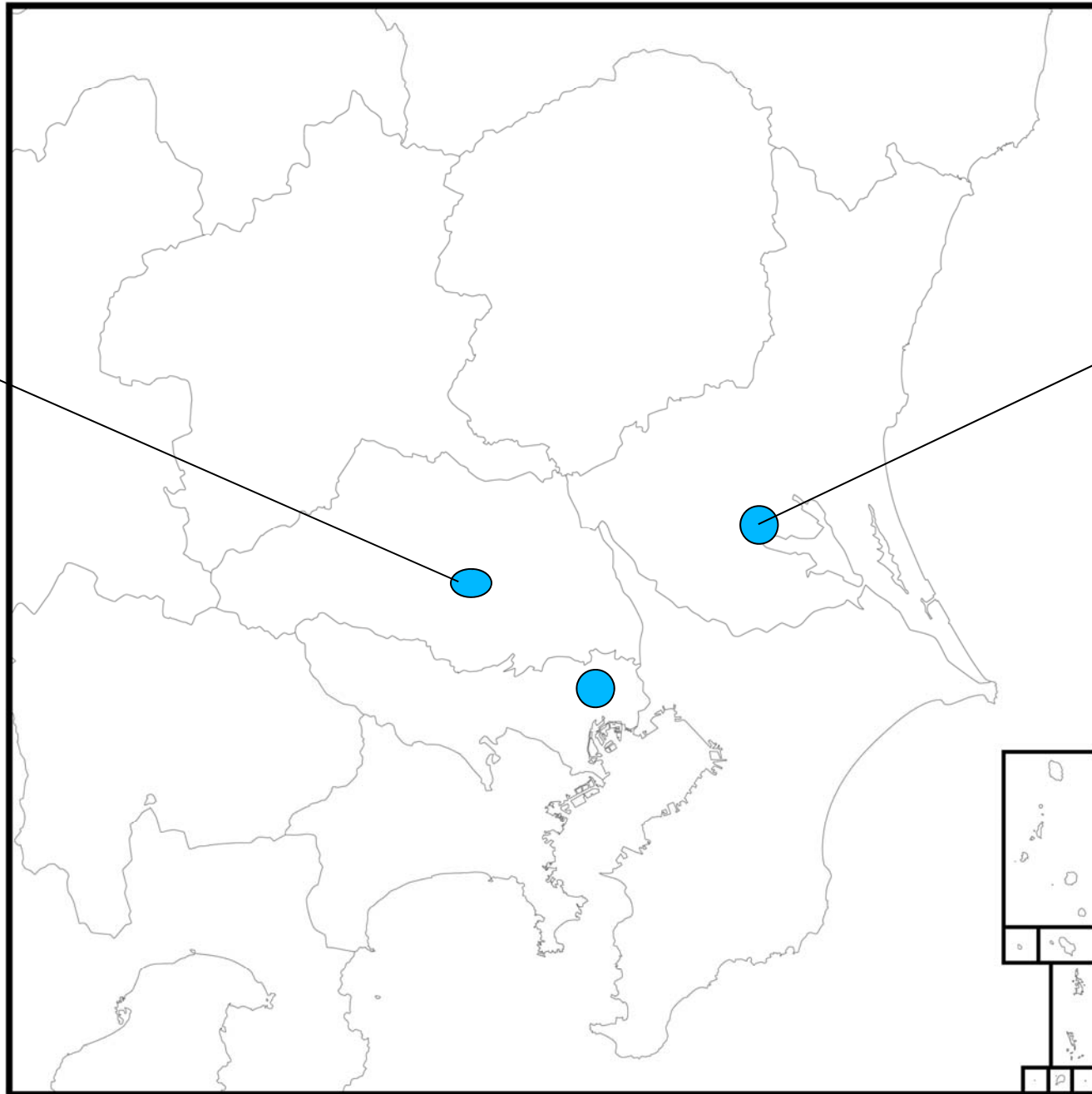
国立公園と市民をつないだ2年間



筑波大学附属坂戸高等学校
農業科 建元喜寿
(平成20年度1次隊インドネシア環境教育)

日本の勤務校

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）を使用したものである。（承認番号 平19総使、第82号）



学校の概要

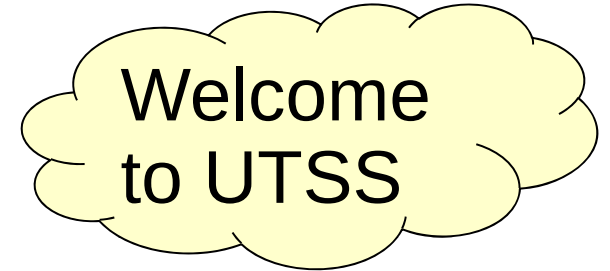


創立:1946 (1994年 平成6年より日本初発の総合学科)
生徒数 480人(定員 各学年160名)

学校農場



22,230km²



事前訓練の様子 (JICA二本松訓練所)



インドネシアはどこ？



インドネシアはどこ？



インドネシア

1万7,500もの大小の島により構成される。また2億4千万人が住む現在世界第4位の人口である。



インドネシア語はかわいい

Cumi-cumi cuma-cuma kira-kira laki-laki

(イカ 無料 だいたい オス です。)

無料のイカは、だいたいオスです。

こんな文はまずつかいませんが、文法的にはOKです

Tidak apa-apa



配属先：グヌングデパンランゴ国立公園



首都ジャカルタから2～8時間(約100KM)

配属されてわかったこと

- ・家は、まだ住めない(水がない)
- ・出前授業は、年に数回しかない。
- ・さらに、本部では行っていない。

私は何をしにインドネシアへ??

日常生活(自宅)



日常生活(トイレ)



日常生活(移動・食事)



協力隊の仕事

- 必ずしも、はっきりした仕事があるわけではない。
- 現地のニーズチェックを行いながらすすめる。
- 協力隊自身が主人公ではない。

Kegiatan 1 : Pendidikan lingkungan hidup tentang sampah



どんな仕事を国立公園で行ったか

- 1 地域や学校での環境教育
（とくに廃棄物中心）
- 2 国立公園のプロモーション
（エコツーリズム、CSR）







Sampah Adalah Sumber Daya

Jika dipilah dan dikumpulkan, sampah dapat menjadi sesuatu yang berguna



Jika dicampur dan dibuang, sampah hanya akan menimbulkan kesehatan manusia dan mencemari lingkungan

Terurai sampah
5bulan
5bulan

10-12tahun
30-40tahun
50-80tahun





国立公園のプロモーション

- ジャカルタの日系社会とのつながりを大切に（海外にいるのだから、日本人とのつながりはさけるとかいろいろ拘らない）。
- 企業CSR活動を呼び込む

SHARP インドネシアの植樹





現地のフリーペーパーとの連携



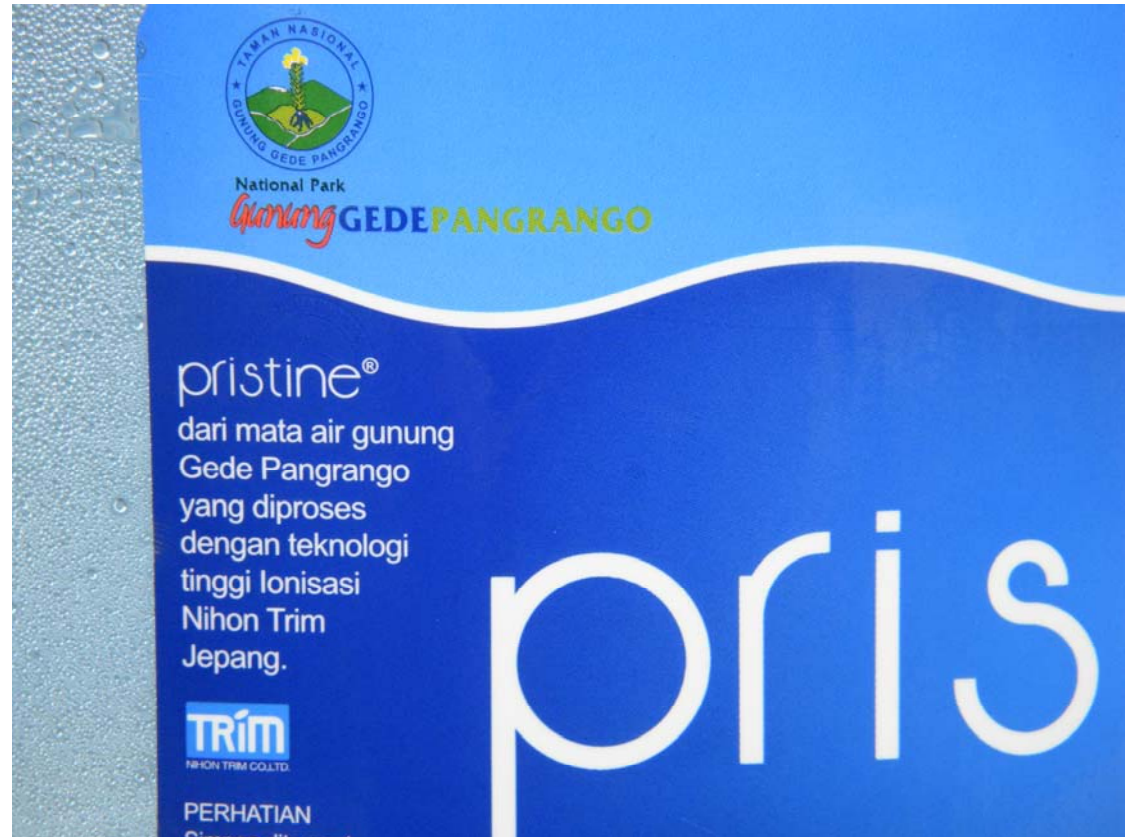
online sarasa

期間限定
さらさPDF版
ダウンロード
＜約18.8MB＞
個人のパソコンで
お楽しみください。

さらさVOL.73 PDF ダウンロード

編集長とのスマトラ取材と原稿執筆。
配属先でのエコツォーの共同企画

国立公園ロゴ入り製品の開発



インドネシア初の製品

この製品販売までの道

- 仕事はなく、言葉も上達しないので、寂しく日本食スーパーをぶらついていた。
- 偶然、仕事場の国立公園を水源とする唯一のミネラルウォーターがあること知る。
- 早速、その会社にもメールしてみる。
- アポを取って企画書を提出
- なんと社長さんが同い年で、岡山出身！

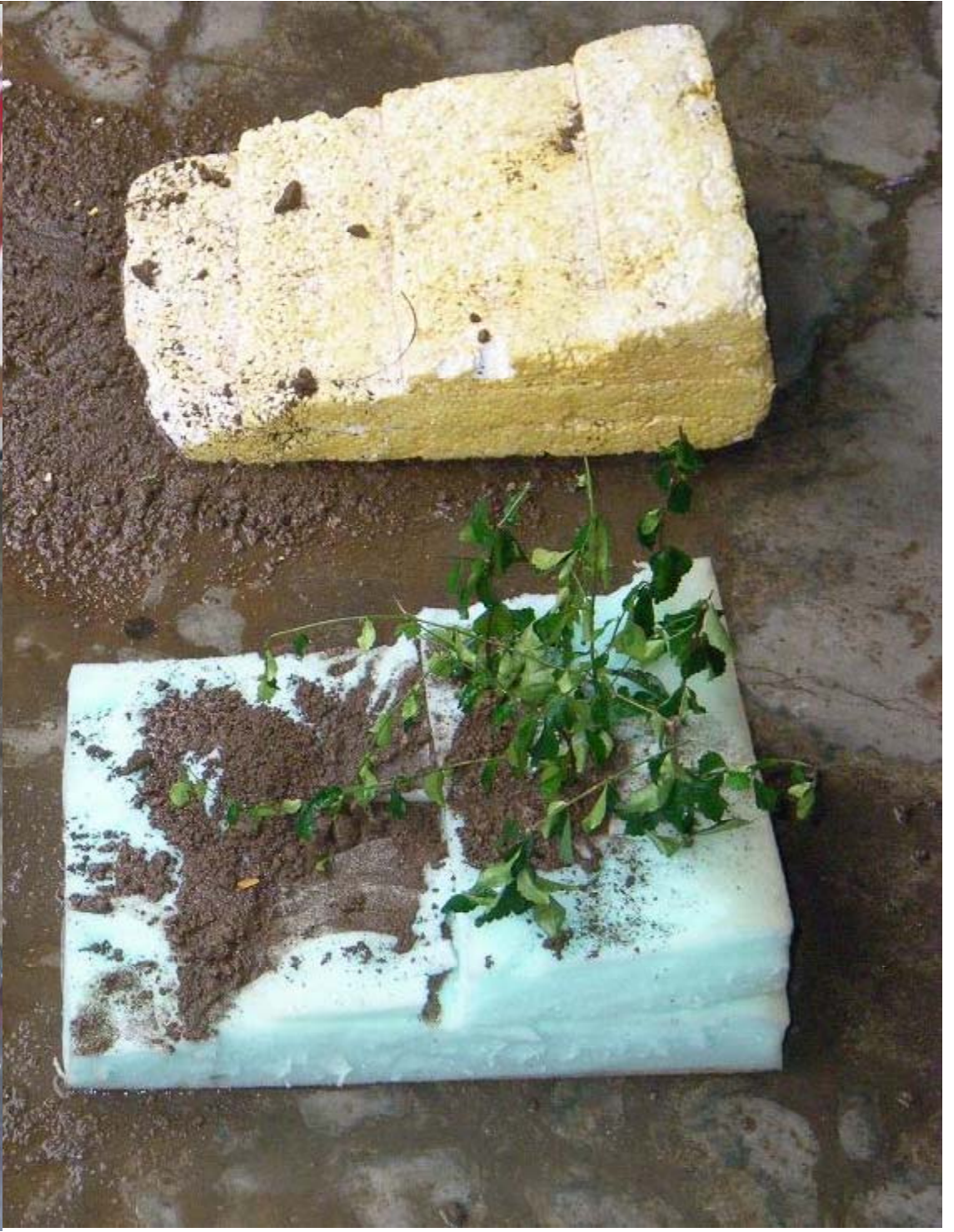




KEWUJUDAN
PASUNGUNGAN











その他

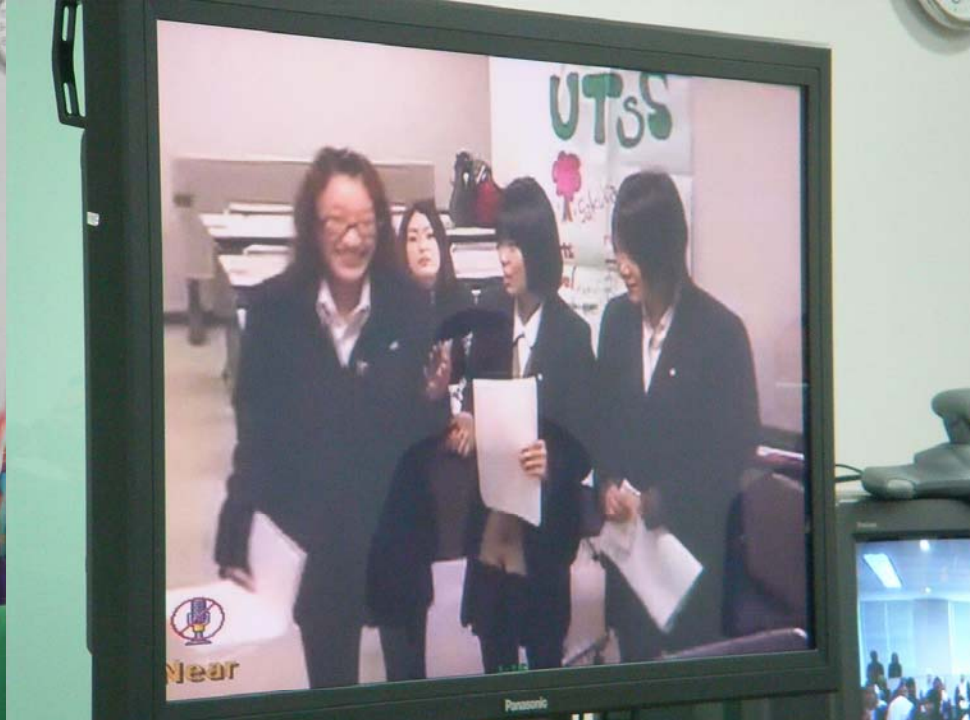
- ・ジャカルタージャパン祭り
- ・インドネシアでのお花見会とゴミ拾い
(日本大使館、日本人会、国立公園、地元民)
- ・滝や登山の案内
(雑誌との提携、企業との提携)
- ・JICAプロと企業の橋渡し

国際協力イニシアチブ事業











国際協力イニシアチブ以外で

- ・ JICAヤングリーダープログラムでの派遣
- ・ JFのJENESISプログラムでの派遣
- ・ 国際エコプロダクツ展（ジャカルタ）への参加





日本に帰国して

- すでに、インドネシアの2年が遠い昔に感じます。
- 「新しいか、古い」から「大切な、大切にないか」「必要か不必要か」を基準にしていこうと思っています。

2年間を振り返って

場所や、環境を変えても人は変わらない
というひともいますが、

私は、環境は人を変え我想います。
また、人が環境を変えることもあると思います。

今、間違いなく言えることは、2年間、協力隊に参加
できて本当に良かった！ということです。



Taman Nasional *Gunung* GEDEPANGRANGO



国際への提案

- ・内なる国際化（これは農業科の仕事、これは I 系の仕事という考え方はやめる）
- ・行事の仕分け（校外学習とのドッキング）
- ・インドネシアの可能性
（世界でも有数の親日国、Bricsに続く国、被支援国から消費国へ、勉強の熱心さ）

生徒や学校への還元

- ・まずは、いつもの授業を大切に
- ・産業などの授業で
- ・総合学科学研究大会で「国際」をテーマに
- ・学校と外部機関との連携役
(ユネスコスクールとESD)
- ・外部資金の獲得
(H22年度TOYOTA財団アジア隣人プログラム)
- ・外部への発信

Terima kasih (ありがとう！)



Sampai jumpa lagi (また会いましょう！)